

御五神島・無人島体験事業

～出会い、発見、ゆめ体験 in 御五神！～

1 事業のねらい

子どもたちが、無人島という制約された環境の中で、自ら創意工夫し、協力し合いながら自然体験活動・生活体験活動に取り組むことにより、自立心や協調性などの社会性を育むとともに、困難なことに直面しても克服できる柔軟で強い精神力を養う。

2 事業の概要

- (1) 対象 小学5年生～中学3年生（42名）
- (2) 参加費 25,000円
- (3) 日程

月日（曜日）	活動内容	場所
7月30日（土）	開会式、オリエンテーション、アイスブレイキング、テント設営等実習、班別活動計画作成	大洲青少年交流の家
31日（日）	竹食器製作、生活資材仕分け、荷造り	大洲青少年交流の家 下灘公民館
8月1日（月）	御五神島入島、開村式、テント設営	御五神島（無人島）
2日（火）	生活用品作り（食器だな、洗濯干場等）、海水浴	御五神島（無人島）
3日（水）	食事作り、シュノーケリング、釣り、星空観察	御五神島（無人島）
4日（木）	食事作り、シュノーケリング、釣り	御五神島（無人島）
5日（金）	自給自足的生活体験、テントサイトコンテスト	御五神島（無人島）
6日（土）	資材整理、スタンプ練習、キャンプファイヤー	御五神島（無人島）
7日（日）	撤収作業、離島、資材整理	御五神島（無人島） 大洲青少年交流の家
8日（月）	感想文作成、閉会式、記念撮影	大洲青少年交流の家

(4) 参加状況

上記の事業概要にて、県内すべての小中学校に募集案内を配布し、5月末から一ヶ月間参加者を募集したところ、18市町から男子105名、女子41名、合計146名の応募があり、抽選により男子30名、女子12名が平成23年度「御五神島・無人島体験事業」に参加することとなった。

(5) 実施にあたって

- ① 野生動物の専門業者に依頼し、イノシシの生息調査を行ったところ、数頭の生息が確認された。電気柵を電気防護ネットに替え、テントサイトの周囲に設置するとともに、夜間は不寝番を配置し、参加者の安全確保に努めた。
- ② イノシシ不寝番の配置等、安全管理体制をより充実させるために、小中学校の教員を例年より4名増やし、15名が指導者として参加した。
- ③ 昨年度に続き、愛媛大学教育学部の「地域連携実習」により、6名の学生が指導者として参加し、サブリーダーとして子どもたちの指導にあたった。

3 活動の記録

(1) 7月30日(国立大洲青少年交流の家での活動)

開会式後、グループに分かれて自己紹介や指導者によるアイスブレイキングを行う。その後、営火場に移動し、ロープワークやテント設営実習を行った。



(開会式)



(参加者あいさつ)



(テント設営実習)

(2) 7月31日(国立大洲青少年交流の家での活動)

午前中は、御五神島で使用する竹食器の製作やタープ設営実習を行った。午後からは、各班が使用する資材を確認し、コンテナに梱包した。夕食・入浴後、宇和島市の下灘公民館へ移動した。



(竹食器作り)



(班旗作り)



(下灘公民館で就寝準備)

(3) 8月1日(御五神島へ入島、無人島体験の開始)

3隻の船にたくさんの資材や食材を乗せ、嵐港を出港。御五神島に着くと、全員で荷物を運び、開村式を行った。そして、島での生活が始まった。



(御五神島に到着)



(開村式)



(島で初めての食事)

(4) 8月2日～6日(御五神島での生活)

日の出とともに起き、日没とともに寝る生活。三度の食事は自分たちで作る。その中で、自然に協力体制や役割分担ができ、さまざまな工夫が生まれた。



(マッチが無くなり火起こし)



(消えそうなかまどの火)



(海水浴で大はしゃぎ)



(シュノーケリング)



(きれいになったテントサイト)



(テントサイトコンテストの表彰)



(自給自足の生活：釣り)



(おいしそうなお貝)



(うどん職人)



(雨に降られました)



(島で最後の食事)



(キャンプファイヤー)

(5) 8月7日(御五神島を離島し、国立大洲青少年交流の家へ)

早朝より撤収し、閉村式を行った。船に荷物を積み、御五神島を離れた。国立大洲青少年交流の家にもどり、午後からは使った道具の片付けを行った。



(閉村式)



(荷物運び)



(道具の片付け)

(6) 8月8日(最終日、大洲青少年交流の家で事業の振り返り)

事業について振り返り、感想文をまとめた。そして、いよいよ最後の閉会式。修了証を参加者に渡し、記念写真を撮影。涙を流し、感動の別れとなった。



(参加者代表あいさつ)



(修了証授与)



(記念写真撮影)

4 「生きる力」の変容

本事業が、参加者の「生きる力」の変容に及ぼす効果を明らかにするために、国立青少年教育振興機構より昨年5月に提供された『「生きる力」の測定・分析ツール』を使用し、調査を実施した。調査は、事業初日7月30日の開会式後（事前）と最終日8月8日の感想文作成の前（事後）の2回行ない、有効回答数は39（参加者42名）であった。

★ 分析結果

「生きる力」の変容（得点範囲：28～168点）

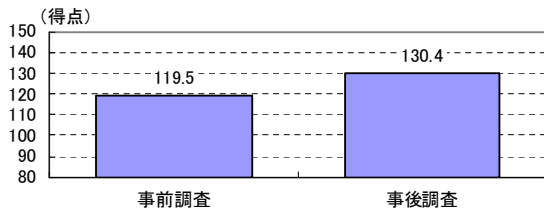


図1. 「生きる力」の平均値の推移

「心理的社会的能力」の変容（得点範囲：14～84点）

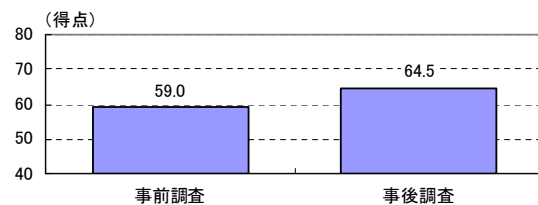


図2. 「心理的社会的能力」の平均値の推移

「徳育的能力」の変容（得点範囲：8～48点）

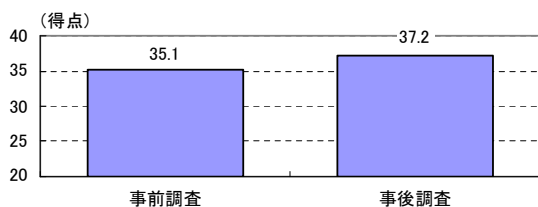


図3. 「徳育的能力」の平均値の推移

「身体的能力」の変容（得点範囲：6～36点）

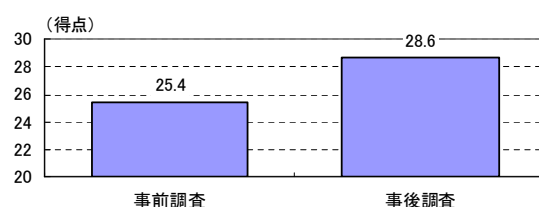


図4. 「身体的能力」の平均値の推移

本調査のまとめとして、次の4点を挙げる。

- 事前と事後では、「生きる力」が10.9ポイント向上し、島での3不の生活（不自由・不便・不足）は、参加者の「生きる力」の変容に影響を与えたと言えるであろう。
- 協力して生活することにより、よいコミュニケーションを図ることができ、自己肯定感が高まった。また、野外で生活することにより、計画性が向上した。
- 自然の中で生活することにより、自然への関心が高まった。
- 電気や便利な道具の無い生活を通して早寝早起きの習慣が身に付き、野外活動の技術が高まった。

5 成果と課題

本年度も、御五神島での無人島体験を含む、9泊10日という長期間の事業を通して「非日常の場所での非日常の体験」を設定することで、参加者に対して「家族や友だちの大切さ」「日常生活のありがたさ」等、普段はなかなか意識することのできない様々な気付きを提供することができた。

事前事後のアンケートの検証によると、「明朗性」「交友・協調」「現実肯定」「視野・判断」という心理的社会的能力、「自然への関心」という徳育的能力、「日常的行動力」「野外技能・生活」という身体的能力を高めることができ、御五神島での無人島体験が、子どもたちの「生きる力」の変容に影響を与えることができたと言えるであろう。

今後とも、愛媛の子どもたちに豊かな体験活動を提供できるよう、熱中症や事故・ケガの防止、イノシシ対策等の安全・衛生管理の徹底、水や食材、キャンプ資材を見直し効率的な事業の運営、イノシシ不寝番や入島・離島時のボランティアの継続的な確保などに努めていきたい。